

「めあて」ー「まとめ・振り返り」を生かした授業づくりのチェックリスト

チェックリストを活用して日々の授業を振り返りましょう。
全ての先生が中級以上を目指しましょう。

校内授業研究会で、授業を見る
視点としても活用できます。



初級

中級

上級

めあて

- 本時の単元名やタイトルを「めあて」として提示している。
- 教師が用意した「めあて」を設定し、提示している。

- 本時のゴールイメージから「めあて」を構想している。
- 「まとめ」と「めあて」が正対している。
- 子供の疑問や気付きをもとに「めあて」を設定し、提示している。

- 追究に向けての必然性や意欲を持つことができるよう、課題を子供から引き出し、「めあて」として提示している。
- 子供が自ら「めあて」を設定することができるよう、既習事項との相違点や共通点を明らかにしている。

まとめ

- 教師主導で本時の「まとめ」を行い、板書等で提示している。

- 子供の発言から「まとめ」を作成し、板書に整理している。
- 教科ならではの学習用語を取り入れている。
- 全ての子供がアウトプットする場を設定している。

- 子供が自分の力でまとめることができるよう、必要なキーワードを子供から引き出し、板書に整理している。
- 理解確認のための問い返しをすることで、全ての子供が「まとめ」について具体的にアウトプットできるようにしている。

振り返り

- 感想や質問を書く時間を設定している。
- ノートやワークシートに振り返りの記入欄を設けている。

- 具体的に振り返ることができるよう、振り返りの視点を示している。

- 振り返りに対して教師が価値づけや問い返しを行うことで、「何が分かり、できるようになったのか」を全ての子供が自覚できるようにしている。

ゴールイメージ

大切なのは、ゴールイメージを明確にして、主体性を引き出し、学習内容の定着を図る授業づくりをすることです。教科の特性や単元の展開に応じて、めあてやまとめ・振り返りを適切に設定しましょう。

